

認知症グループホーム 認知症グループホームくつろぎ

1 基本方針

認知症になっても入居者一人ひとりが個人として尊重され、住み慣れた地域の中で築いてきた暮らしを大切にしながら、その人らしく生活できることを目指す。

2 利用者の状況（令和4年3月31日現在）

（1）入退所の状況

| 定員 | 前年度末 利用者数 | 令和3年度中の入退所状況 | | | | | | 利 用 延人員 | 年間平均 稼働率 | 年 度 末 利用者数 |
|-----------|--------------|--------------|----|----------|----------|---------------|----|------------|-------------|---------------|
| | | 入所 | 退所 | 退所理由別 | | | | | | |
| | | | | 家庭 復帰 | 施設 移管 | 契約解除 (入院等) | 死亡 | | | |
| 9人 | 9人 | 5人 | 5人 | 0人 | 1人 | 3人 | 1人 | 3,170人 | 96.50% | 9人 |
| 2年度 9人 | 9人 | 1人 | 1人 | 0人 | 0人 | 1人 | 0人 | 3,232人 | 98.39% | 9人 |

（2）利用者の介護度別人員

| 性別 | 要介護1 | 要介護2 | 要介護3 | 要介護4 | 要介護5 | 計 |
|-----|------|------|------|------|------|----|
| 男 性 | 0人 | 0人 | 2人 | 1人 | 0人 | 3人 |
| 女 性 | 1人 | 3人 | 1人 | 1人 | 0人 | 6人 |
| 計 | 1人 | 3人 | 3人 | 2人 | 0人 | 9人 |

（平均介護度2.66）

3 事業の実施状況

（1）専門的ケアの実施と個別支援

ア 認知症の研修や入居者の認知症に伴う行動に対する検討会にて学び、振り返りを行いながら、正しい理解に努めた。また、料理・洗濯・掃除等、入居者の方が出来る事や得意な日常の家事活動など、個々の有する能力に応じた個別支援に努め、役割や生きがいを持てるよう取り組み、認知症の進行が緩やかになるような支援に努めた。

イ 入居者の方の機能を理解し、出来ることが維持できるように支援し、生活リズムや本人の思いに基づいたケアプランを目指し、利用者本位の支援に努めた。

ウ 役割的な活動を取り入れ、感謝を伝えながら活動の継続に努めた。1日2回、ラジオ体操・ストレッチ・口腔体操を実施し、また、毎月回想法を意識したお楽しみ会を企画し、身体活動の機会を多く取り入れ、得意な分野で機能を発揮していただき、体力・機能維持に努めた。

エ 体力・機能低下や急変時について、家族に事前意向確認を実施し、くつろぎにおける今後の対応を確認した。また、通院や往診、健康管理、緊急体制時等、事業所とかかりつけ医や地域の医療機関との連携を図った。

（2）職員の資質向上と人材育成

ア 年2回の職員研修会や毎月の定例会議時に必要な研修を実施し、認知症の方への支援方法に反映出来るよう努めた。重度化・ターミナルケア技術については、今年度は外部研修への参加ができなかったため、今後検討する。

イ 個別面談を通じ個別研修計画を作成し、目指す姿をより明確にし、職員一人ひとりがスキルアップできるよう取り組んだ。また、進捗状況や助言、アドバイス等も随時行った。

(3) 地域社会との連携と認知症理解への取り組み

ア 運営推進会議を2ヶ月に1回開催し、活動状況やヒヤリハット、行事内容を報告した。感染予防の観点から3回書面会議とした。運営推進委員（協力医、民生委員、区長、市役所職員、他グループホーム、施設職員、利用者、家族など）から運営や健康管理のアドバイスをいただき、運営の参考となっている。

イ 新型コロナウイルス感染予防のため地域の方との交流が図れなかったが、地域の文化祭への展示参加にて施設の紹介を行った。また、散歩やドライブにて、四季やふるさとの景色を感じて頂いた。感染対策をしながらの地域交流の実施方法などが今後の検討課題である。

ウ 新型コロナウイルス感染症が治まらず、認知症カフェや地域の活動もほとんど実施されなかった。感染対策を行いながらどのような活動が出来るのか検討中である。

エ 面会方法に制限があるため、毎月くつろぎ便りを個々に作成、送付し、生活の様子や行事の様子をお伝えし、喜んでいただけている。タブレットでの面会の希望も実施もなかったが、窓越しや感染対策を行いながらの短時間面会を行った。また、体調面など変化があった際には連絡を行い連携や信頼関係の構築に努めた。

オ 近隣施設との合同火災避難訓練、緊急時の対応の確認を行った。今後も他施設及び地域との連携の方法などを構築していく。

(4) 経営基盤の確立

ア 今年度は入居者の重度化もあり5名の入退所があった。入院も5名あり目標稼働率(97%)は達成できなかった。(年間稼働率96.5%) 今後も、新規入居者のスムーズな受け入れに努め、看護師、医療機関、家族との連携を図りながら細やかな体調管理を行い、入居者の健康管理と異常時の早期発見に努める。

(5) 労働環境の整備

ア 随時業務の見直しを行い、休憩時間の確保や時間外勤務の軽減に努めた。タブレットによる記録の省力化、介護ロボットの活用による異常時の早期発見等、職員の負担軽減と共にリスクの軽減に繋げている。より働きやすい職場環境を目指して何でも相談し合える風通しの良い職場になるよう、更に取り組んでいきたい。

4 実習、ボランティアの受入状況

(1) 実習の受入実績

| 実習受入先 | 受入期間 | 実人員 | 延人員 |
|--------------------------------------|------|-----|-----|
| 豊岡短期大学通信教育部 社会福祉士養成通信課程ソーシャルワーク実習 | 6月 | 2人 | 3人 |
| 計 | | 2人 | 3人 |

(2) ボランティアの受入実績

新型コロナウイルス感染予防対策の為、今年度はボランティアの受け入れを中止した。